



撰

特 別

チ 12

3656

18







412  
3656  
18

早河



早ハも海一ウキんさん乃  
 ぬまと揚子江里ヨあると  
 尸民よそん我親よ孝さよ  
 ち集一きお愛をるる揚子の  
 希よ出湯をう海なすハ福也  
 ちと成海一とをハ乃まふ  
 なるわさの可も何来りき海り

上



詞

次才くくふ富貴乃才と来てん  
 又さくふくきふふことのん  
 市毎よ来里海正のむ者乃んり  
 さうりしき乃んんハウきかな終せ  
 面さハありにりりりん福の  
 能よ不害ふ存必を致らんん  
 海中よし母程くとヤものなわ

浪湯お江りし物々海をたれへ  
 ま海なすハのなすハ其味へき  
 由ヤ人程よハハ浪海お江よ  
 出々海をけめりやとあハ  
 浪海お江乃かとりりてづく  
 葉をたへてすもすく月影  
 まんゆも友持や又うさくは







海さふふ 葦の葉お菊をさき  
波お鼓とうとうち 急す  
わづる 蒲風お 秋乃さうへや  
乃さふらん ありういや  
心すあかなあよまわははは  
い川三娘たへ 吹々か  
あたふあなわよしはきく

万代まきお竹乃葉お濁くめ  
はきす乃めともりしぬ終乃  
兼おさうしおけもさあ  
の江乃 流あ  
よめくともりお外なる松乃  
あおきじらおんい  
手伝おとぬおさうあたけ







